



共用部分の防犯は1千659円

「居住者が負担してもよいと考える、共用部分の防犯対策費用は、月額で平均1千659円」

これは独立行政法人建築研究所が昨年末に行った「共同住宅における防犯に関するアンケート調査」。回答は共同住宅に居住する519名で、うち2割が賃貸住宅の居住者。

5割超の人が犯罪不安を感じているのは次の部位。

- ・共用出入口の周辺(外部)
- ・自動車置場、オートバイ置場

4割超の人が犯罪不安を感じているのは次の部位

- ・共用玄関以外の共用出入口
- ・駐車場
- ・エレベーター内
- ・共用出入口の内部
- ・共用メールコーナー

共用部分において、実際に防犯カメラが設置されている部位の最多は「エレベーター内」。次いで「共用出入口の内部」「1階のエレベーターホール」の順。居住者が設置を必要と感じているのは「共用出入口の内部」「エレベーター内」が8割弱。実際の設置状況と必要性を比べると、次の部位はニーズが高いにもかかわらず、防犯カメラの設置率が低いことが分かった。

・共用玄関以外の共用出入口・自転車置場、オートバイ置場・駐車場

防犯カメラの設置部位数と居住者の満足度を比べると、設置ゼロ、1部位、2部位では満足度に大きな変化が見られず、3部位の設置で満足度が目立って高まっている。3から5部位までは大きな変化が見られず、6部位を境に満足度が不満度を上回る。防犯カメラを導入するときは、3部位または6部位以上というのがひとつの目安になりそうだ。

共用部分のこうした防犯対策のために負担してもよい金額(自由回答)は、月額で平均1千659円。最多回答は1千円(31%)だが、2千円、3千円との回答もそれぞれ12%にのぼった。年齢別には50代と60代に支払い許容額が高く、平均はともに2千200円を超えた。

この調査の詳細はこちら(コピー&ペーストして下さい)

http://www.kenken.go.jp/japanese/research/hou/list/topics/bouhan/kyodo_report.pdf

日本賃貸住宅管理協会ホームページ 2006/5/18 より